



石峯便り

(平成28年度 全国学力・学習状況調査特集号)

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

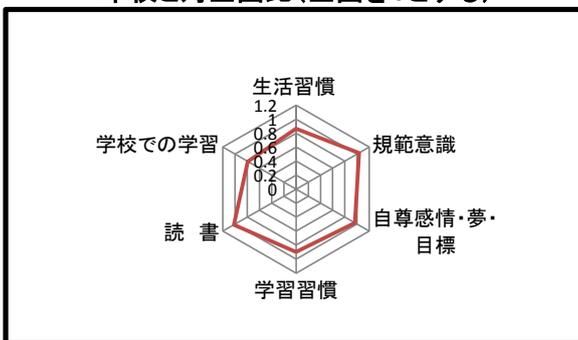
学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	全国平均正答率との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	下回っている。	・全国平均正答率を下回っていたものの、昨年度より上昇していた。 ・領域別では「話すこと・聞くこと」の正答率が最も低く、今後の課題である。
国語B	下回っている。	・全国平均正答率を下回り、一昨年度より毎年3ポイントずつ下がっている。各領域の「活用する力」を身に付けさせることが課題である。 ・全9問中、6問について無回答率が0ポイントであった。
数学A	上回っている。	・全国平均正答率を上回っており、基礎的な計算力がついてきた。 ・場面に応じて比例式を作ったり、方程式の解の意味や、近似値と誤差の意味を理解したり、確率の意味を理解する問題の正答率が低く今後の課題である。
数学B	同程度である。	・全国平均をわずかだが、上回ることができた。各分野の利用や、応用問題に対しても、粘り強く取り組むことができるようになった。 ・領域別では、「資料の活用」や「関数」が正答率が高く、「数と式」が低く課題である。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要

本校と対全国比(全国を1とする)



質問紙調査の結果分析

- ・平日の家庭学習を1時間以上行っている生徒の割合が過去三年間で44→52→72%と上昇してきている。
- ・平日に携帯、スマホ、パソコンなどによるテレビゲームを2時間以上行っている生徒の割合が、過去三年間で39→42→40%と減少せずに推移している。
- ・平日のテレビ等の接触時間が2時間以上の生徒の割合は、過去三年間で55→65→60%と高い割合で推移している。
- ・家庭学習の推進とともに、テレビ等の接触時間やテレビゲームの使用時間の抑制を図る生活習慣の改善の取り組みが必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組 (全校で・学年で・学級で)

- ◎ 学力向上のための特設時間<石峯タイム>の実施(全校で)・各学期に一回ずつ国語・数学・英語の基礎学力強化週間を設けて朝自習や帰りの会の自習を週毎に交替で実施し、週末に学習コンクールを実施する。(漢字・計算・英単コンクール)
- ◎ 全国学力調査の過去問題やCRTテストのアシストシート(練習問題)、活用力を高めるワークの活用(教科で、学年で)・アシストシートやWEB問題(市教委作成ネット公開問題)を使い、基礎基本の定着を図る。・アシストシートや過去問を冊子にして、冬休み・春休みの「宿題帳」とする。
- 「書くこと」を習慣化(教科で、学年で、学級で)・学習の最後、3分間を「振り返りタイム」として、振り返りを書くようにする。・連絡帳に3行程度の「ミニ日記」を書く。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)・自主学習ノートの活用・家庭学習時間の設定・「家庭学習の約束」の作成・実施・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用(毎月、月末または月初めの週に提出、点検を実施、学習委員会の活動で)・家庭学習マイスター賞への応募・冬休み・春休みの宿題に過去問題やアシストシート、WEB問題を活用・テレビ等の接触時間やテレビゲームの使用時間の抑制のための呼びかけを生徒会の委員会活動等で取り組む。
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取り組み等を保護者へ周知・学校便りや、学校ホームページを通じて調査の結果と取組の成果と課題について周知を図り、家庭教育学級や学年懇談会等を通じて、家庭と連携し協力体制を整える。